

4 実践報告

第5学年学級活動指導案

1 活動内容 友だちと協力する心を磨こう

2 日時・場所 平成26年2月5日(水) ・ 甲州市立塩山南小学校 5年3組教室

3 本時のねらい

児童会選挙の活動を振り返り、6年生を送る会に向けてさらに全員で協力する気持ちを高める。

4 展開

	学習活動	指導上の留意点	資料など
導入 5	① 児童会役員選挙の振り返りシートより活動を頑張っていた友達を紹介する。	① 先週の今日は何の日だったかをクイズ形式で答えさせて緊張をほぐす。普段、あまり目立たない児童の活動を取り上げる。	児童会役員選挙振り返りシート
展開 30	<p>② 今日は、選挙で友達がどんなところを頑張っていたかを考え、さらにクラス全員が次の6年生を送る会でもっと協力できるように2つの活動(エクササイズ)をすることを告げる。</p> <p>③ (エクササイズ1)「4面鏡」をする。 ・2つのグループに分かれる。 ・学習シートを順に回して、グループの全員が友達の頑張っていたところに○を3つ以上5個以内つける。 ・この活動を通してどんな気持ちがあったかグループで話し合う。</p> <p>④ (エクササイズ2)「神様ですか」をする。 ・神様役1人、他の児童は好きなもの(動物、キャラクター等)、教職員は天使役になる。 ・神様は目を開けて無言、それ以外は目を閉じて室内を歩き、人に出会ったら「神様ですか」と聞く。 ・神様と出会ったら、黙って手をつないで仲間になる。仲間になったら無言で目も閉じたまま。神様以外と出会ったら「○○で</p>	<p>② 使い慣れていないので、エクササイズという言葉は使わない。</p> <p>③ 2つのグループ(児童会長応援グループ・副会長応援グループ)で丸く座ってエクササイズをする。 友達からの評価を知り、自分の頑張りを再確認させる。</p> <p>④ エクササイズ1を受けて、友達を信じて、さらに協力できる5年3組になれるように活動することを伝える。 教職員は児童の安全を考えて支援する。</p>	学習シート

	<p>す」と答え、神様と出会うまで続ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神様以外の方が神様の仲間になった列に出会ったら、黙って列の間に入れる。 ・全員が神様と出会って、仲間になったら終了。全員目を開ける。 ・誰が神様だったか予想する。 ・活動をしながらいんな感じがしたか発表する。 	<p>目を開けると、全員が一つの輪になっている意外性と感動を味わわせる。途中で目を開けてしまった児童にも、見えない不安があったことを認める。</p>	
まとめ 10	<p>⑤ 学習シートに感想を書く。</p> <p>⑥ 発表する。</p> <p>⑦ 教職員の話を聞く。</p>	<p>⑤ 2つの活動を通して、具体的に感想を書かせる。(どんなところが楽しかったか、友達と協力する気持ちが強まったか等)</p> <p>⑥ あたたかい雰囲気て友達の話を聞けるようにする。</p> <p>⑦ エクササイズをしていた時の児童の様子や、6年生を送る会に向けての励まし等を話す。</p>	学習シート

第6学年道徳学習授業案

平成26年8月29日(金)5校時

6年3組 男子12人 女子13人 計25人

1 主題名 「わたしのできること」 4-(3)役割と責任の自覚

2 資料名 輪 + 輪 = 和! (わわわはわ!)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

この主題は、4-(3)「身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす」ことをねらいとする。

友だちを認めることや友達から認められることは、学校生活を有意義に送る中で重要な要素の一つである。自己の欲求だけを求めるのではなく、周りに目を向けて行動することによって、人間関係が円滑になり、何倍もの喜びや達成感を味わうことができる。

本学習を通して、クラスが一つの目標に向かっていくためには、自分に何ができるのかを考え、行動しようとする気持ちを育てたい。

(2) ねらいに関わる児童の実態

友だちと協力してやり遂げようという気持ちを持った児童が多い。6月に行った友だちアンケートでは、「クラスが今よりもっとよくなるためには何が必要か」の問いに対して、「いろいろな人

と話をする」「声をかける」などの答えがあり、自分や仲良しグループだけでなく、クラス全体の友だちのことも視野に入れた考え方や行動ができる児童も増えてきた。実際に1学期末のお楽しみ会では、レク係を中心に企画・運営を行い、そこにクイズ係も加わって、全員が楽しく活動することができた。

6年生も1学期が終わり、男子は自分のしたいことを優先するのではなく、今やるべきことをする。女子は必要なことは、言いにくいことでも言葉にして伝えるようになってきた。これは、周りの友だちが受け止めてくれるようになったからであると考えられる。しかし、うまくいく時もあれば、お互いが嫌な気持ちになる時もある。

4 前年度からの様子

5学年でクラス替えがあり、持ち上がりの2年目である。昨年度の4月当初のクラスは、男子は元気で目立つことが好き、女子は静かで影で支えるタイプの子が多いという印象であった。

Q-U 検査は、昨年度の5月、11月、今年度の5月と、これまでに3回行なった。いずれも、「親和的なまとまりのある学級集団」と判定された。ルール of 定着はできてきたが、男女ともに小集団からの広がりが見られないという課題が明らかになった。また、男女問わず自分に自信がもてない児童も多く、友達の言動を気にしたり、傷ついたりすることもあった。

そこで、5年生の2学期から次の2つの活動に力を入れて学級経営をしてきた。一つ目は、児童が主体的に取り組む活動を取り入れた。班ごとに学級レクを企画・運営させて、できるだけ児童の力でやり遂げさせた。教職員は、ルールが徹底できなかつたり、困っている児童がいたりするときに助言する程度の支援をした。「〇班がやってくれたから、みんなで楽しめた。」「友だちが楽しんでくれて嬉しかった。やってよかった。」といった思いを積み上げていった。二つ目は、教職員主導で特別活動や道徳の時間を利用して、構成的エンカウターの活動を行なった。はじめは、「アドジャン」や「ジャンケンぼいぼい」などの気軽に楽しめるエクササイズを行い、児童にエクササイズで楽しくなる、友だちとかかわることができるといった気持ちを持たせた。Q-U の課題をうけて、友だちと気持ちを合わせる体験をさせたいと考え、信頼体験を得られるエクササイズ（「みんなと仲良く」「アウチでよろしく」など）と自己理解・他者理解を深めるエクササイズ（「☆いくつ」「四面鏡」など）を中心に実施してきた。実施する時には、クラス内で、孤立している児童や友達関係が円滑に出来ない児童が活躍できるように配慮をした。シェアリングでは、「エンカウターをして、初めて〇〇さんと話をした」といった感想を書いた児童もいた。

レク活動とエンカウターを繰り返すうちに、仲の良い友だちだけでなく、他の友だちとも話すようになっていった。また班活動では、自分たちで考えて仕事の軽重をつけたり、声をかけあったりして行動していた。席替え等も、仲良しの友達でかたまらないように工夫をする姿が見られた。

Q-U の変動	平成25年11月実施	→	平成26年5月実施	(全国平均)
・学級生活満足群	68%	→	72%	(39%)
・非承認群	8%	→	12%	(18%)
・学級生活不満足群	24%	→	16%	(25%)
・侵害行為認知群	0%	→	0%	(18%)

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

自分ができることを考えることで、自分もクラスの一員であることを自覚する。

(2) 展開

時間	学習活動	期待する子どもの心の動き	教職員の支援	環境や教材の工夫
インストラクション5分	<p>○1学期の振り返りをする</p> <p>○本時の学習を知る。</p>	<p>・友だちと協力できた。</p> <p>・うまくできるかな。</p>	<p>・児童会行事や、普段の生活のなかで友だちと協力してきたことを思い出させる。</p> <p>・2つのエクササイズを通して、クラスの輪が今よりももっと太く、大きくなって、和やかで平和なクラスになることを知らせる。</p>	
エクササイズ30分	<p>○『ハンドパワーの輪』をする。</p> <p>・全員が同じ方向を向いて、立ったまま一つの円になる。</p> <p>・目を閉じて、手のひらを前の人の背中や肩に付ける。</p> <p>・そのまま無言でパワーを送る。と同時に、送られてきたパワーを感じとる。</p> <p>○『みんなの輪』をする。</p> <p>・学年目標を振り返り、みんなのために自分ができることを一つ書く。</p> <p>・書けたら模造紙に掲示する。</p> <p>・掲示できたら、全員で見る。</p>	<p>・やってみよう。</p> <p>・心を込めてやろう。</p> <p>・手の平が温かくなってきた。</p> <p>・友だちの手からパワーを感じる。</p> <p>・自分にできることは何かな。</p> <p>・私の考えは、○○さんと似ている。</p> <p>・□□さんみたいな考え方もあるんだな。</p>	<p>・心を込めてパワーを送るようにする。</p> <p>・ハンドパワーとは背中に置かれた友だちの手から感じる励ましや称賛の声であることを知らせる。</p> <p>・『みんなの輪』の活動につながるようにクラスとしての一体感を体験できるようにする。(言葉がけ、活動に参加など)</p> <p>・『ハンドパワーの輪』で感じた友だちのパワーを思い出して、2学期をより充実して過ごせるように全員で頑張る気持ちを持たせる。</p> <p>・書けない子には支援す</p>	<p>教室の後ろを広くする</p> <p>机をもとにもどす</p> <p>わカード 模造紙</p> <p>画用紙 10 ×</p>

			る。 ・早く終わった子には模造紙に貼る自分の顔を描かせる。	10cm
シ ェ ア リ ン グ	○2つのエクササイズを通して、感想（感じたこと・気付いたこと）をワークシートに記入する。 ○班で感想を伝え合う。 ○班長が出された感想を簡単に発表する。 ○教職員の話を聞く。	・『ハンドパワーの輪』は、恥ずかしかった。 ・2学期はカードに書いた通り、がんばるぞ。 ・どの班もいろいろな感想が出たんだな。	・ワークシートの心のメーカーの欄と感想の欄に書くことを知らせる。 ・2学期の大きな行事もみんな協力してやり遂げよう。	ワークシート

(3) 評価

自分ができることを考えて表現し、クラスの友だちといっしょに頑張ろうという気持ちをもつことができたか。

(4) 事後指導

模造紙を壁に貼って、いつでも児童の目につくようにしておく。運動会や修学旅行等、クラスや学年全体で協力する時に思い起こさせ、行動に移すことができるように支援する。

行事の前後に自分のめあてを決めたり、反省をしたりして、自己評価や他者評価をする。また、活動中に望ましい言動があった場合は、積極的に取り上げて他の児童に知らせる。

(5) 児童の感想（ワークシートより）

[学校生活満足群]

- ・「ハンドパワーの輪」をやったら、友だちの手があたたかかった。
- ・肩のところがボワ～ってあたたかくなって、これはみんなが思っていることなんだと感じた。
- ・先生がスタートと言ったとき、体がゾクッとしました。みんなと協力できてよかったです。
- ・「ハンドパワーの輪」で、みんな集中していた。
- ・「みんなの輪」で書いたことを実現できるようにがんばりたい。みんなのカードに「友だちと協力する」というカードが多くて、確かにと思った。
- ・みんなで助け合い、みんなと協力する、その2つはとても大切でとても必要なものだと思った。これからも6年3組全員で中学校になってクラスがかわっても、クラスの人と助け合い、協力していこうと思った。
- ・授業をやってから気分がよくなった。
- ・みんなとの関係を少し深められたと思う。

[非承認群]

- ・これから困っている人を助けてあげられるようにしたい。
- ・ふだんやらない事をして緊張した。6年では、この授業で書いたことをやっていきたい。

[学級生活不満足群]

- ・みんなのパワーがあまり感じられなかった。
- ・カードに「助け合いをしたい」というふうに書いてあったので、みんなで助け合いをすればいいクラスになると思います。
- ・みんな友だちを助けたいみたいなことが書いてあったので、次からは困っている人を助けたいと思います。

◇2年間の実践を通して ～中学校へ向けて～

昨年度からの継続的な構成的エンカウンターの実施を通して、クラス内に何を言っても受け止めてもらえる温かい雰囲気が出来てきた。友達の頑張りや成果に対して、自然に起こる拍手や笑顔、困っている友だちにそっと手を貸す姿、お互いに励まし合う姿等を、いろいろな場面で目にするようになった。友達からの一言で、自分でも気づかない一面を知ることになり、自信につながった児童も多い。そこから友だち同士の信頼関係も深まり、友達の意見を認め、受け入れられる素直な心も育ったと考えられる。具体的な児童の変容として、児童会執行部の児童は、自分たちの考えとともに、下級生の意見を取り入れた行事の運営を考えるようになった。縦割り班の班長が先頭で班員を並ばせている時に、後ろにいる6年生が下級生に声をかけるようになった。友だちに対して、自分の思いばかりを訴える児童もいるが、周りがあることを理解していて、衝突することなく、折衷しながら生活できるようになってきた。否定的な言葉から入る児童もいるが、友だちの良いところも多く発見できて発信もしている。などが挙げられる。

4月からは中学校へ進むが、新しい友達に対しても、素直な気持ちで接することができるであろう。エクササイズの実験が、中学校という新しい場面での対応力になり、初めてのことに對しても物怖じすることなく、積極的に取り組んでくれることと思う。

残された小学校生活をより実り多いものにするために、また、児童同士のさらなる関わりや心の発達を目指して引き続き構成的エンカウンターを取り入れた学級経営をしていきたい。